

第6回「しがwebアンケート調査(県内)」の結果について

1. 調査の目的

県政における喫緊の課題や重要事項について、インターネットを活用し適時迅速に他府県民の意識や意向を調査し、速やかに県の方針や県政運営に反映させるための基礎資料とする。

2. 調査の概要

- (1) 調査対象 滋賀県内在住の満 18 歳以上の個人
- (2) 標本数 500 人
- (3) 調査方法 インターネットを利用し、パソコン、スマホ等により回答するWEB調査
- (4) 調査期間 令和2年 12 月 10 日(木)～ 12 月 14 日(月)
- (5) 調査会社 株式会社クロス・マーケティング

3. 調査項目

テーマ:移住に関する意識

- (1) 「渇水に対する意識や取組」(流域政策局)
- (2) 「平和祈念館の認知度」(平和祈念館)

4. 主な調査結果

■「渇水に対する意識や取組」について

Q1 過去には琵琶湖の水位が大きく低下し、水利用が制限されるほどの渇水(水不足)が発生したことをあなたは知っていますか。

- ・知っている 58.4%
- ・知らない 41.6%

6 割近くの方が過去に水利用が制限されるほどの渇水(水不足)が発生したことを「知っている」と回答している。年代別で見ると「知っている」と回答した方が18～34歳では33.6%なのに対し、65歳以上では70.9%となっており、年代が上がるほど「知っている」割合が高くなる傾向が見られた。

Q2 あなたは渇水(水不足)が起こる原因は何だと思いますか。(複数回答可)

- 1位:雨や雪が降らない日が増えているから 80.8%
- 2位:生活様式の変化に伴い使用量が増加しているから 40.0%
- 3位:水を無駄に使用しているから 29.2%
- 4位:産業活動に伴う使用量が増加しているから 25.6%
- 5位:その他 1.4%

「雨や雪が降らない日が増えているから」と回答した方の割合が高くなっている。一方、「使用量が増加しているから」や「水を無駄に使用しているから」と回答した方が一定数あった。

Q3 気候変動に伴い渇水のリスクが高まっていることをあなたは知っていますか。

- ・知っている 53.6%
- ・知らない 46.4%

「知っている」と回答した方の割合が「知らない」と回答した方の割合を上回っている。年代別で見ると「知っている」と回答した方が18～34歳では37.4%なのに対し、65歳以上では67.7%となっており、年代が上がるほど「知っている」割合が高くなる傾向が見られた。

Q4 あなたは日常、水を無駄使いしないように節水を意識していますか。

- ・常に意識している 24.0%
- ・どちらかといえば意識している 67.0%
- ・あまり意識していない 5.8%
- ・全く意識していない 3.2%

「常に意識している」、「どちらかといえば意識している」と回答した方の割合が90%を超えている。

Q5 深刻な渇水(水不足)をできるだけ防ぐために、渇水(水不足)になる前から節水に

取り組むことが大切です。あなたは家庭でどのような節水に取り組もうと思いますか。または既に取り組んでいますか。(複数回答可)

- 1位:こまめに蛇口を閉める、こまめにシャワーを止める 70.2%
- 2位:洗濯物をまとめて洗う 54.8%
- 3位:風呂の残り湯を洗濯などに利用する 41.2%
- 4位:トイレでは何度も水を流さない、大小の使い分けをする 38.8%
- 5位:節水効果の高い家電製品やトイレを使用する 19.8%
- 6位:食器は洗い桶等に水を溜めてため洗いをする 19.4%
- 7位:風呂水を2日以上使う 9.2%
- 8位:雨水を貯めて利用する 8.6%
- 9位:蛇口に節水コマをつける 7.8%
- 10位:取り組もうと思わない 3.8%
- 11位:その他 0.8%

取組の内容はさまざまであるが「節水に取り組もうと思う」または「既に取り組んでいる」と回答した方の割合が「取り組もうと思わない」と回答した方の割合を大きく上回っている。

Q6 家庭でも水利用が制限されるような深刻な渇水(水不足)に備えて、あなたは家庭で普段からどのような準備をしようと思いますか。または既に準備をしていますか。(複数回答可)

- 1位:普段から節水を心がけ、節水を習慣づける 69.8%
- 2位:ペットボトルなどにより水を備蓄する 31.6%
- 3位:節水効果の高い家電製品(洗濯機など)に変える 23.2%
- 4位:雨水を貯留する 12.0%
- 5位:準備をしようと思わない 6.8%
- 6位:簡易トイレを準備する 6.2%
- 7位:その他 0.2%

準備の内容はさまざまであるが「準備をしようと思う」または「既に準備をしている」と回答した方の割合が「準備をしようと思わない」と回答した方の割合を大きく上回っている。

Q7 渇水に備えるにはどのような情報が必要と考えますか。(複数回答可)

- 1位:琵琶湖の水位低下による県民生活への影響について 56.4%
- 2位:琵琶湖の水位情報について 50.8%
- 3位:深刻な渇水に備えた取り組み事例について 41.4%
- 4位:節水の取り組み事例について 39.2%
- 5位:その他 1.8%

「琵琶湖の水位低下による県民生活への影響について」や「琵琶湖の水位情報について」の情報を必要とする割合が高いが、家庭等における取組事例についても必要と回答した方が一定数あった。

■「平和祈念館の認知度」について

Q8 滋賀県平和祈念館をどの程度知っていますか。

- | | |
|---------------------------------|-------|
| 1位:知らない | 62.0% |
| 2位:名前だけは知っている | 24.2% |
| 3位:名前は知っているが、事業内容としては展示しか知らない | 8.6% |
| 4位:名前も知っているし、展示以外の事業があることも知っている | 5.2% |

8割以上の方が名前も知らないか、もしくは名前は知っていても何をやっているか知らない。あらためて、平和祈念館の認知度の低さが明らかになった。

Q9 Q8で「名前だけは知っている」、「名前は知っているが、事業内容としては展示しか知らない」「名前も知っているし、展示以外の事業があることも知っている」を選択された方にお尋ねします。当館のことを何でお知りになりましたか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1位:県、市町の広報 | 37.4% |
| 2位:新聞、テレビ、ラジオ | 30.5% |
| 3位:滋賀県ホームページ | 22.1% |

「覚えていない」を除いた上位3項目は上記のとおりである。年代別にみてもいずれも「県、市町の広報」が1位であった。

「滋賀県ホームページ」は3位であったが、「滋賀県ホームページ」と「滋賀県平和祈念館ホームページ」を合わせると32.1%で、2位となる。

Q10 Q8で「名前も知っているし、展示以外の事業があることも知っている」を選択された方にお尋ねします。滋賀県平和祈念館の事業で知っているものを選んでください。

- | | |
|------------------|-------|
| 1位:資料の収集、保存、展示 | 80.8% |
| 2位:戦争遺跡分布調査 | 53.8% |
| 3位:講師を招いての平和学習講座 | 46.2% |

上位3項目は上記のとおりである。逆に下位は「出前授業、出前講座」23.1%、「来館学習支援」26.9%、「戦争体験証言映像作品(DVD)の制作」26.9%などとなっており、平和祈念館の取り組みをもっとアピールする必要がある。